

SPODフォーラム2016

愛媛大学(2016.8.24)

教育・学修支援を担う 図書館員的能力開発

－求められる知識・スキルを再考する－

同志社大学 学習支援・教育開発センター事務長
社会学部嘱託講師「学術情報利用教育論」

井 上 真 琴

minoue@mail.doshisha.ac.jp



プログラムの目標

- ▶ 大学図書館が教育・学修支援を担う根拠を理解する。
- ▶ 何をどのように教育・学修支援を行えばよいのか、具体的に説明できる。
- ▶ 教育・学修支援に求められる知識・スキルについて、事例を挙げて説明できる。



本日の構成

- I. 大学教育を知る：大学リテラシー
- II. 教育・学修支援に必要な知識・スキル
 - II-1 「学ぶ」とは何かを知る
 - II-2 アクティブ・ラーニングを取り込む
- III. 学習環境デザインを理解する



I . 大学教育を知る：大学リテラシー

学習成果の重視、質保証の意識

*大学リテラシー（©寺崎昌男）



課題 1 「学習」か「学修」か？

- ▶ 学習支援とも、学修支援とも言いますが、両者はいったい何が違うのでしょうか？
あるいは、同じことなのでしょうか。

課題 2 「正課」か「正課外」か？

- ▶ 大学図書館が提供（展開）する情報リテラシー教育プログラムがありますが、「正課」教育プログラムでしょうか？
「正課外」教育プログラムでしょうか？

大学教育の知識を有することの重要性

- ▶ 自学の教育に係る知識
 - ▶ 日本の大学教育に係る知識
 - ▶ 世界の大学教育に係る知識
-
- ・米大学の「アカデミックアドバイザー」は何をしているか？
 - ・米大学の「科目ナンバリング」は何のためにあるのか？
 - ・米大学の教学IR活動における測定方法と指標は？
 - ・英大学のレポート・エッセイ課題の記述用語は？

DP:ディプロマ・ポリシー

グローバル社会が直面する国際的課題に対し、地域的特性と歴史的背景を客観的・倫理的・批判的に調査する技能を備え、学術的知見に基づいて本質を理解できるようになる（知識・技能）。

- 何を指標にするか: ①網羅的な情報探索と情報源の評価技術
②公正で間違いのないCitation

CP:カリキュラム・ポリシー

- 基礎必修科目群から8単位を履修する(授業科目を改訂・増設)
「学術情報活用技術論」ほかを通して、網羅的で批判的な文献調査の技術を獲得し、公正で間違いのない引用ができる。

点検指標は
これでよいか

授業科目の
編成はこれで
よいか

授業の実施
方法はこれで
よいか

学部・研究科
自己点検・評価
委員会

1年間の教育
活動の見直し

コースの改善(他の科目)

コースの改善(他の科目)

ひとりひとりの担当科目の
改善活動(FD)

コースの改善

- ①コースでの学習成果
②コースそのものの自己点検評価

「学術情報活用技術論」

- ・到達目標の点検(ルーブリック評価)
- ・授業評価アンケートによる フィードバック
- ・毎回のコメントペーパーによる点検
- ・レポートや試験での学習評価

以上)

組織でのカリキュラムの
改善活動(FD)

各学部・研究科のFD委員会での蓄積

各担当者の教育活動改善報告

成績・GPAに関するデータ類(直接評価)

学生調査データ(間接評価)

Ⅱ．教育・学修支援に必要な知識・スキル

Ⅱ-1 「学ぶ」とは何かを知る



◎ 科学技術・学術審議会 学術分科会
研究環境基盤部会 学術情報基盤作業部会

「大学図書館の整備について」(審議のまとめ)

ー 変革する大学にあって求められる大学図書館像ー

2010年12月3日

1. 大学図書館の機能・役割及び戦略的な位置付け

(3) 大学図書館に求められる機能・役割

① 学習支援及び教育活動への直接の関与

2. 大学図書館職員の育成・確保

(2) 大学図書館員に求められる資質・能力等

① 大学図書館職員としての専門性

② 学習支援における専門性

③ 教育への関与における専門性

④ 研究支援における専門性

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/1301602.htm

(参照2016-07-20)

ロジスティクスから教育・学修支援へ

図書館は従来、情報源を貸し出したり、配信したり、契約した情報源へのアクセスを保証したり、つねに学術情報流通、つまりロジスティクス(物流)を重視してきた。

学修支援においては、その視点から脱却し、情報をどう利用すれば、学生の認知・思考が活性化し、成果を生むのかを焦点とする。

それには、有力な学び(の手法)であるアクティブ・ラーニングを情報リテラシー教育プログラムに取り込み、これを核に実践を重ね、学生に情報利用のコンピテンシーを体得させることが目標となる。



《情報を主体的に使いこなす力》

(特に図書館・図書館情報学でいう)情報リテラシーとは、情報の探索・収集に関わるスキルが中心となっている(と思われる)。しかし、情報リテラシーは、入手した文献などを読解・分析し、その成果を表現・伝達していく一連の過程にわたるものであり、単なる機器操作にとどまるものでもない(ととらえたい)。まさに、「情報」を活用して、さまざまな「問題」を解決していくための総合的力である(と捉えたい)。

野末俊比古. 「情報リテラシー教育」とは何かを考えるにあたって. 情報管理. 2009, vol.52, no.3, p168-171.



情報リテラシーのある人

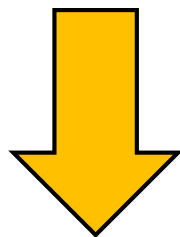
- ▶ 結局のところ、情報リテラシーのある人は、学習の方法を知っている人である。学習の方法を知っているのは、情報がどのように整理されているか、情報をどのように見つけるか、どのように利用すれば他者が自分から学ぶことができるかを知っているからである。そして、どんな作業や決断においても必要な情報を見つけることができるため、生涯を通じて学んでいく。
- ▶ Ultimately, information literate people are those who have learned how to learn. They know how to learn because they know how information is organized, how to find information, and how to use information in such a way that others can learn from them. They are people prepared for life-long learning, because they can always find the information needed for any task or decision at hand.

American Library Association Presidential Committee
on Information Literacy, *Final Report* (1989)



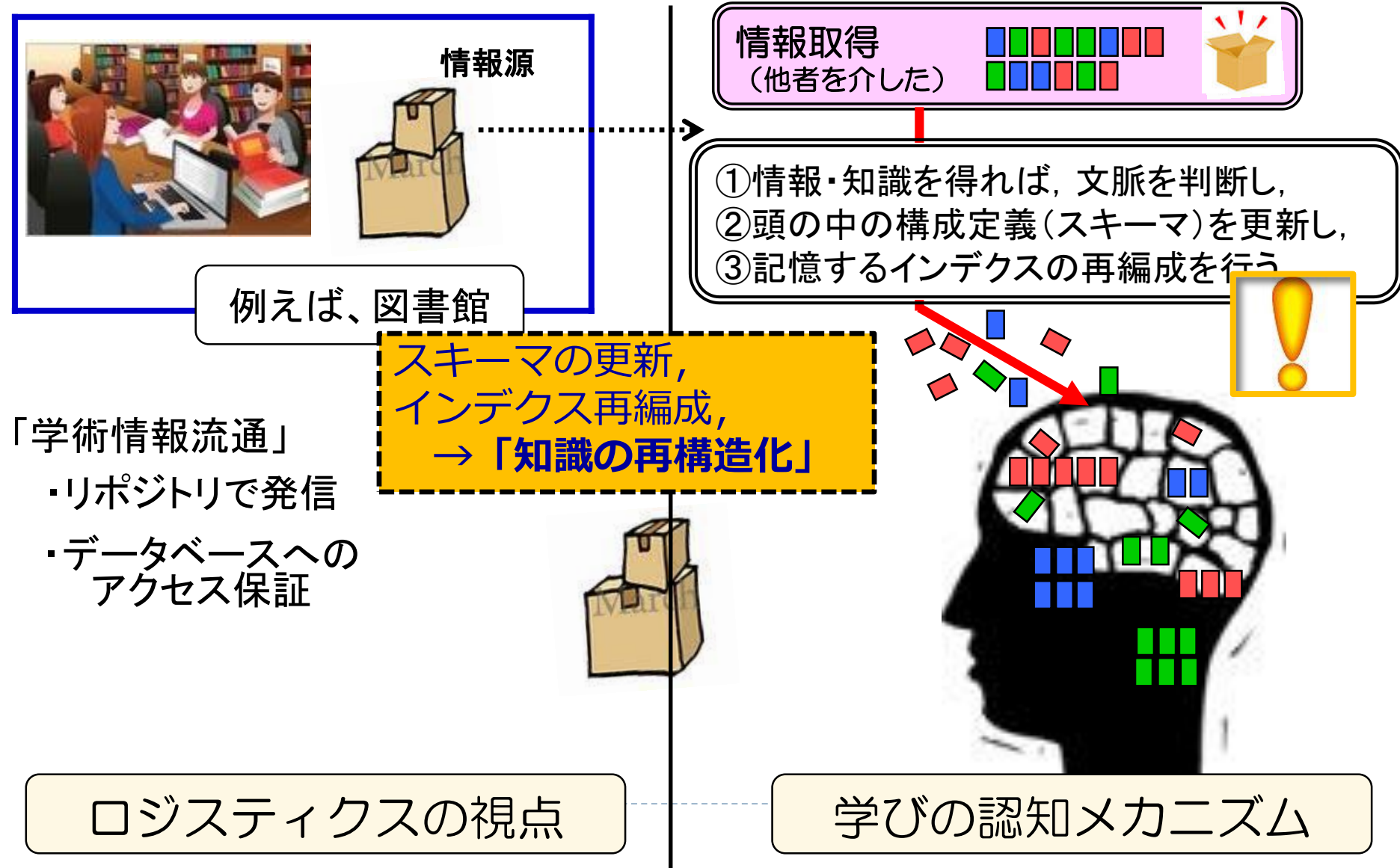
課題3 「学ぶ」とは何か

自分なりに「学ぶ」ことを定義する



Fabulous!!

ロジスティクスでなく認知メカニズムが焦点



事前読解の資料による確認

今井むつみ『学びとは何か』

- ▶ 新たな知識はゼロからは生まれない。すでに知っている知識を様々に組み合わせることで生まれる。創造力の源泉は持っている知識を使って想像することである。(中略)人は、想像力といま持っている知識を組み合わせることによって、無限に新しい知識をつくっていくことができる。
 - ▶ 人は持てる知識を総動員して新しい知識の要素を獲得する。スキーマがうまく機能していれば、新しい要素を学習するたびに新しい要素はシステムに関係づけられ、前からある要素も修正されるし、システム全体がアップデートされる。
 - ▶ 「生きた知識」は目の前の問題を解決するのに使うことができるだけではない。新たな知識を創造するために使うことができる。
-



事前読解の資料による確認（つづき）

今井むつみ『学びとは何か』

- ▶ グループでいっしょに作業したり、ディスカッションしたりするスタイルに変わりつつある。（中略）まず、自分の考えを他の人に話すことは、考えを明確にし、整理するのにとても役立つ。（中略）複数の人が集まって考えを出し合うことで、自分では考えつかなかった視点やアイデアに気づくことができる。

今井むつみ他『人が学ぶということ』

- ▶ 知識の獲得には、豊富化と再構造化がある。
 - ▶ 学習は「自発的な知識の変容」
 - ▶ 社会的文脈に埋め込まれた学習
状況論的学習論／「正統的周辺参加」「認知的徒弟制」
-

学習理論の理解が必要

▶ 欧米の図書館で影響力のある学習理論

1. 行動主義：定型行動の正確さ

学習は、新しい行動パターンを自動的にになるまで繰り返すとする受動的プロセスである。

2. 認知的構成主義：知識・技能の応用と転移

学習は、学習者が新しく得た情報を、既知の知識やスキーマを調整し、再編成・再構成を行うプロセスである。

3. 社会的構成主義：学びの実践と協同

学習は、各学習者が個人的な経験、知識、スキーマに基づき、コミュニティの他者との相互関係を通じて構成される。



課題 4 二系統の説明ができるか

- ▶ 教育・学修支援専門職という呼称が、最近はよく使われますが、以下の二系統に読めます。

「教育・学修」支援専門職

「教育・学修支援」専門職

それぞれ、どのように異なるでしょうか。

(事前の読解資料の理解度)

Ⅱ．教育・学修支援に必要な知識・スキル

Ⅱ-2 アクティブ・ラーニングを取り込む

(教授法・インストラクショナルデザイン領域)



課題 5 図書館員の専門性とは何か？

- ▶ 『人が学ぶということ』に異版はあるのか？
- ▶ あれば、内容は何が異なっていたか？

アクティブ・ラーニングが言語化できない①

▶「思考を活性化する」学習形態

- ・実際にやってみて考える。
- ・意見を出し合って考える。
- ・わかりやすく情報をまとめ直す。
- ・応用問題を解く。
- ・振り返る(省察する)。

＝活動を介してより深くわかる

形態・呼称: 課題探求型学習, PBL (Project-, Problem-Based Learning), 学生参加型授業その他

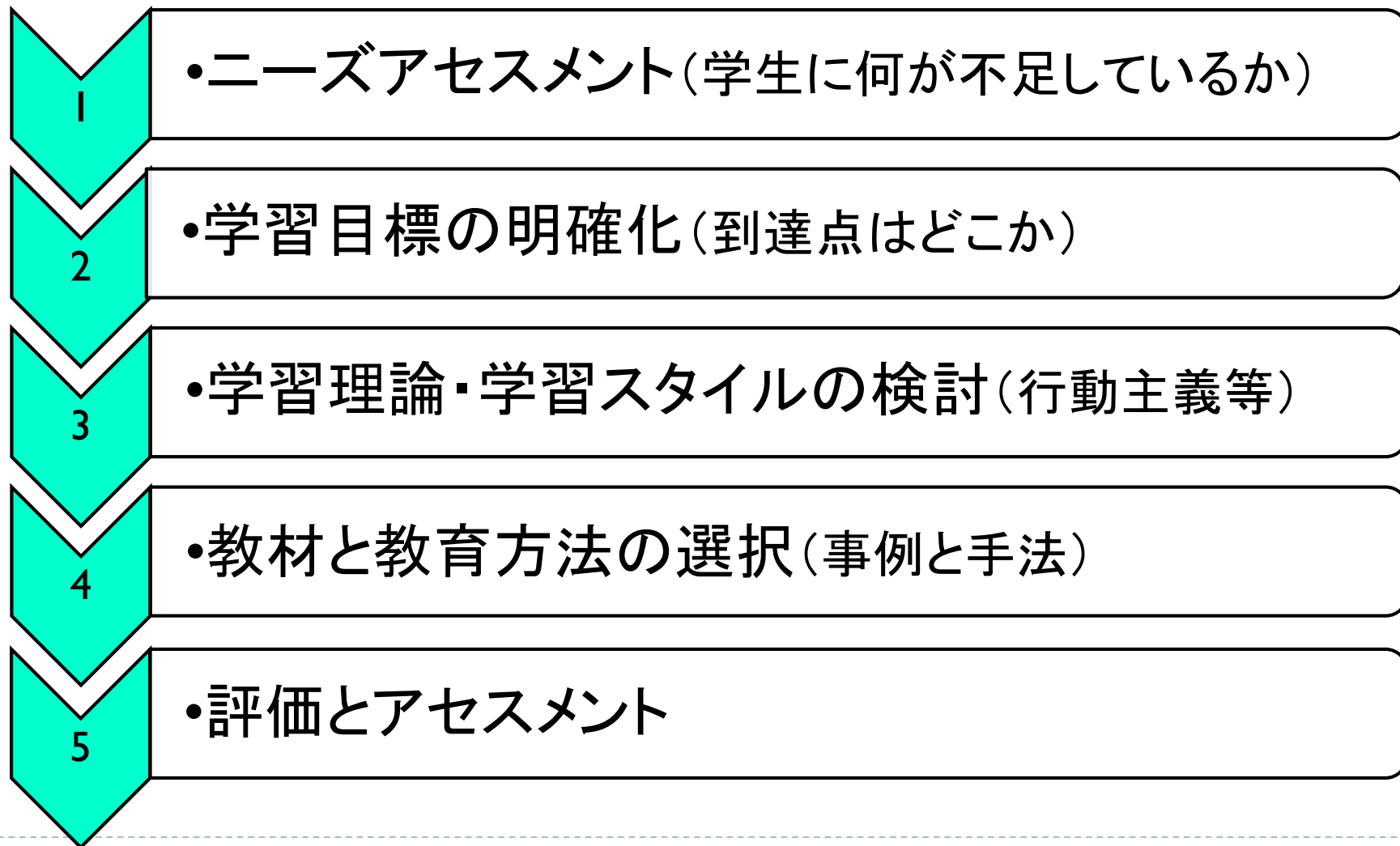
理論・手法: アンカード・インストラクション, 相互教授法, ジグソーメソッド, ゴールベースドシナリオ, LTD等

アクティブ・ラーニングが言語化できない②

- ▶ アクティブであるべきなのは、学生の行動 (Behavior) ではなく、認知 (Cognition) であり、学生の「認知的な」姿勢をアクティブにすることが重要 (メールマガジン「Beating」第58号)
 - ▶ 学習は、学習者の能動的探索による知識構造体 (スキーマ) の組み替えであり、その過程のコミュニケーション行為により、知識が社会的に構成されることを重視
 - ▶ コミュニケーションの文脈デザインと知識再構成プロセスへの関与により学習支援が可能
-



プログラムを実施する際の順番



全般・個別目標を明確に（雑誌記事）

1. 全般目標：

「逐次刊行物および雑誌（学術雑誌・商業雑誌）の
刊行プロセスや性格の違いを読み解くことができる」

2. 個別目標：

「商業雑誌と学術ジャーナルを検索させ（条件）、
学生（学習者）は、一般的な雑誌の記述と学術ジャー
ナルの論文の違いを知り（基準）、課題に適合した記事
を特定することができる（パフォーマンス）」



全般・個別目標を明確に（新聞記事）

1. 全般目標:

「新聞(全国紙)の発行プロセスや記事の表現方法・信頼性を理解する」

2. 個別目標:

「新聞記事の表現する“事実”について、他の情報を検証させ(条件)、学生(学習者)は、独特の表現や記述方法を知り(メディアの性格)、利用にあたっての注意点を知ることができる(パフォーマンス)」



最終目標を明確に（期末レポート）

- ▶ 社会問題から1つを選択し、その問題に関する具体的な立場を選択して、図書、雑誌、新聞、インターネット情報等を探索・評価し(条件)、学生(学習者)は、利用した情報源の評価理由や主張の根拠となる事実と記述を挙げて(公正で客観的な認識・態度)、自らの考えを主張する(パフォーマンス)」

評価とアセスメント

▶ 学生の学習成果(到達度)の評価

必ず最初の目標に立ち戻って検証する。

▶ プログラムの評価

教育方法が有効だったか、学習者が意図したスキルを身に付けたか。

→ 《ミニツツペーパー》《コメントシート》

・セッションで学習したことの中で最も重要なことは何か？

・まだ答えが出ていない最も重要な問題は何か？

→ 《ルーブリックを活用したパフォーマンス評価》

→ 《振り返り報告・発表》



参考となるガイド・指針

▶ 高等教育のための情報リテラシー教育(2015年度版)

1. 課題を認識する
2. 情報探索を計画する
3. 情報を入手する
4. 情報を分析・評価し、整理・管理する
5. 情報を批判的に検討し、知識を再構造化する
6. 情報を活用・発信し、プロセスを省察する

事例：筑波大学附属図書館

<https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/lib/sites/default/files/attach/landrsupportsystem2015.pdf>

▶ Information Literacy Competency Standards for Higher Education. (ACRL : Association of College and Research Libraries, 2016)



Ⅲ. 学習環境デザインを理解する

「行為や認知を誘発する資源」となる学習環境



よい学習を導くポイント

- ▶ 最もよい学習は、学習者が自身のまだあやふやな段階の思考過程を明示化し、学習過程を通して明示化し続けるときに起きる。
- ▶ 会話や文章によって自分の思考過程を表現し、自分の知識の状態を省察する機会を与えられるときに、よりよく学ぶことができる。
- ▶ 学習科学にもとづいた教室は、省察を促すようにデザインされている、それらの多くは、生徒に自らの思考過程を明示化しやすくする道具を与えることによって、省察を促進している。

R.K.ソーヤー『学習科学ハンドブック』(培風館, 2009)

Blended Librarian, Embedded Librarianに学ぶ

▶ Blended Librarian :

図書館スキルをIT技術、授業設計技術、教育工学等と結びつけて大学の教育現場で活躍する図書館員

The Blended Librarian.

<http://crln.acrl.org/content/65/7/372.full.pdf> (参照 2014-11-19)

▶ Embedded Librarian:

図書館を離れ、利用者が活動している場から、利用者と活動をともしつつ情報サービスを提供している図書館員

鎌田均. 「エンベディッド・ライブラリアン」: 図書館サービスモデルの米国における動向. カレントアウェアネス. 2011, no.309, p6-9.

ワークショップのような実践的な情報リテラシー教育が実行でき、情報の特徴や信頼性を批判的に評価することを、学生のリサーチプロセスの全領域に関わって指導する。

2つのアプローチと実践の場

▶ スキル志向アプローチ: スキル中心主義

理想的な情報利用に必要な一連のスキルが焦点。図書館関係者、情報管理の専門家の視点から情報リテラシーを捉える。

▶ 利用者志向アプローチ: 経験の共有主義

コミュニティに所属する人々が、状況や文脈に応じた効果的な情報利用経験(理解)を蓄積し、成員間で共有することを重視。

多様な情報利用の在り方を認識し、経験することによって、学習成果として情報探索・利用手順のレパートリーを増やすことを目指す。

	スキル志向アプローチ	利用者志向アプローチ
視点の所在	情報管理の専門家	利用者
前提事項	個人の属性	共有経験
学習成果	スキル(属性)の習得	多様な情報探索・利用手順の習得

瀬戸口誠. 情報リテラシー教育とは何か: そのアプローチと実践について. 情報の科学と技術. 2009, vol.59, no.7, p.316-321.

課題 6 三者の関係を説明する

- ▶ 情報リテラシー教育
- ▶ アクティブ・ラーニング
- ▶ ラーニング・コモンズ

上記3つのキーワードを使って、その関係を
筋道立てて、200文字で説明してください。
(キーワードを使う順番は自由です)

本日のまとめ

- ▶ 「人はどう学ぶのか」を考察する学習理論に基づいた教育・学習支援を行う覚悟が要る。
 - ▶ 情報リテラシー教育は「学び方を学ぶ」ことが対象となり、教育=学修支援の核になる。
 - ▶ 上記プログラムにおいて、図書館員はアクティブ・ラーニングを取り込みながら、情報源スペシャリストとしての専門性を展開することが求められる。
 - ▶ ツール中心のアプローチから批判的思考法や問題解決のアプローチへの転換を行う。
 - ▶ 背景となる国内外の大学教育に関する知識を蓄積し、教員らと協働するための共通言語を持てるようにする。
-



教育開発・実践センター
Fder／Academi Instructor

図書館
図書館員

高等教育の知見

学習理論・方法の知見

教育理論・方法の知見

情報源に関する知見

**大学が提供する
情報資源**

教育理論

学習科学

教育工学

教授法

ラーニング・コモンズ

情報リテラシー教育

Team Teachingによるコラボ体制

情報の有効活用
学習成果の引出し方が上手

図書館の「学術情報流通」＝
ロジスティクスの論理は限界

分類

目録

独自のスキル



所属： _____

氏名： _____

課題 1：「学修」か「学習」か？

「学修」支援は、 _____ を意味し、

「学習」支援は _____ を意味する。

課題 2：「正課」か「正課外」か？

例えば、皆さんの提供する情報リテラシー教育プログラムはどちらになるか。

_____ の場合は、 _____

_____ の場合は、 _____

課題 3：「学ぶ」とは何か？

自分なりに「学ぶ」ことを定義してください。

課題 4：「教育・学修」支援専門職と「教育・学習支援」専門職は何が違うか？

「教育・学修」支援専門職は、 _____ であり、

「教育・学修支援」専門職は、 _____ である。

課題 5：図書館員の専門性とは何か？

課題 6：以下の 3 つのキーワードを使って、その関係を筋道立てて（スキーム化して）、
200 文字程度で説明してください。（キーワードを使う順番は自由です）

情報リテラシー教育, アクティブ・ラーニング, ラーニング・コモンズ
